

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第4回高松市文化芸術振興審議会
開催日時	平成30年8月3日(金) 19時00分～20時30分
開催場所	高松市役所 3階 32会議室
議 題	(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の進捗状況について (2) アンケートの実施状況について (3) その他 今後のスケジュールなど
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	青山委員、鎌田委員、木ノ下委員、多田委員、田中委員、水島委員、橋本委員(会長)、若井委員 計8人 (欠席7人 甘利委員、金川委員、鹿庭委員、北岡委員、島田委員(副会長)、谷委員、林委員)
傍聴者	0人 (傍聴席4人程度を確保)
担当課及び連絡先	高松市文化芸術振興課 087-839-2636

審議経過及び審議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。また、会議に先立ち、橋本会長から本日の会議について、原則公開とすることを説明し、出席委員全員がこれを了とした。

(1) 高松市文化芸術振興計画に掲げる事業の進捗状況について
平成27年3月に策定にされた「高松市文化芸術振興計画」に掲げる事業の進捗状況について、事務局から説明を行った。

(2) アンケートの実施状況について
高松市の文化芸術に関する市民アンケート調査について、前回の審議会での各委員からでた意見を基に追加・修正した部分や、実施状況等について、事務局から説明を行った。また、前回の審議会において了承された次期振興計画の素案を示しながら、重点分野等について協議を行い、次のとおり意見があった。

<情報の発信・提供>

(委員)

- ・前回調査に引き続き、情報の発信・提供の仕方に関する要望が多い。
- ・年齢によって、情報収集の仕方が違っており、アンケート中にSNSの利用等に

ついで項目があった方が良かった。

(事務局)

・今回のアンケートでは、高齢な方の回答率が高い。フェイスブック等情報発信は強化しているが、年齢が高くなる程、情報が届いていない傾向にある。

<数値目標>

(委員)

・数値目標関連の回答項目が、いずれも目標値に達していない。ただ、当初の目標値が高かった部分もある。

・「文化芸術が盛んなまちだと思ふ」人の割合は増えており、「自分自身が文化芸術活動をした」人の割合、「文化芸術を鑑賞した」人の割合が減っていることから、市民がより参加しやすい催しや、鑑賞の機会の充実を図っていく必要がある。

(事務局)

・次期計画素案中、主な取組、「活動の場や機会の拡充」「文化芸術を身近なものへ」が該当するため、充実を図りたい。

<地域文化等の伝承>

(委員)

・同じ高松市内でも、都市部(旧高松市)よりも郡部の方が、地域の伝統を守っていくという意識が高く、差があるため、見直しが必要だと感じる。要因の一つは、地域の中心である学校・教育現場との連携。郡部ではそれがうまくいっている。アンケート結果を見ると、子どものための文化芸術活動について触れている方が多い。地域の伝統を繋いでいくからこそ、郷土愛や交流が生まれる。非常に難しい側面はあるが、教育現場と伝統継承の話をもっと繋げたいと感じる。

(事務局)

・次期計画素案中、主な取組、「地域の魅力を再発見し、郷土愛を醸成」に高松市教育委員会で取り組んでいるふるさと学習等、教育現場の視点を加え、充実を図りたい。

<文化施設の利用状況>

(委員)

・高松国分寺ホールは駐車場も無料で、使い勝手のよい施設だが、思ったより利用率の低い回答結果となっている。利用者のニーズの把握が必要だと感じる。

・催しの時期は重なることも多く、利用率の低さについては、使いたい時に使えないという要因があるかもしれない。高松テルサについては、影響について注視していかなければいけない(平成31年3月末閉館予定)。

・表現者として利用する人と、鑑賞者として利用する人の割合については、どのよ

うに解釈すればよいか。

(事務局)

- ・高松国分寺ホールは当初の見込みより高い稼働率となっており、地元の方や企業関係の方によく使われている。また、自主事業を多数開催しているため、予約が取りづらい時があるかもしれない。アンケート結果の利用率が低いのは、地域性が偏っていて、市内全域における知名度が低いのが要因と思われる。
- ・表現者・鑑賞者については、アンケート中、文化芸術を鑑賞したかどうか、自分自身が文化芸術活動をしたかどうか、に関する項目が関連している。

<高松市の人口変動>

(委員)

- ・高松市の人口変動について教えてほしい。

(事務局)

- ・現在、生まれる方より亡くなる方が多く自然減となっているが、社会増（転出より転入が多い）が若干自然減を上回っているため、ここ数年42万人台を維持し、横ばいで推移している。ただし、2035年頃には、30万人を割るのではないかとされている。

<文化芸術のつなぎ手について>

(委員)

- ・地域の伝統を残していくことが重要な反面、自分の意に反してその活動に参加しないといけないという場合もあり、多様性・ダイバーシティをどのように担保するのが非常に難しい。文化芸術活動にどのように参加できるのか、アプローチの仕方が重要。その時大事になってくるのが、ファシリテーター等、表現者と鑑賞者の垣根を越えて、両者をつなぐ存在であり、そういった方々を養成していく必要がある。
- ・市の事業でファシリテーターやコーディネーターを養成する講座があるが、養成された方が、その後、どのように活躍できるのか、人材育成だけでなく、活躍できる場の提供等、育成の目的やその先の視点を持つことが重要。
- ・コーディネーター養成講座については、座学の詰め込みではなく、実際に講座を運営するノウハウであったり、地域の実情に即したものであったり、講座内容に改善が求められる。また、参加メンバーが固定化しないよう工夫が必要。

(事務局)

- ・ファシリテーターの養成に関しては、ワークショップを実際に企画して実践する段階に入ってきているため、今後の展開に期待したい。

<アンケート調査の改善点>

(委員)

- ・アンケート調査における回答者の年齢に偏りがあるため、取り方を改善すべき。SNS等を活用したアンケートの取り方もあり、メディアの変化に適応していくことが必要。
- ・実際に事業に携わっている職員・学芸員やスタッフ等に対してヒアリングを行い、課題や改善案を調査した方が、理に適った制度設計ができるのではないかと。

(事務局)

- ・本計画のまとめとして、最終年度に市民アンケート調査を行うことになっていたが、前回調査と差異が出ないように無作為抽出という形式で調査を行っている。
- ・御指摘を踏まえ、学芸員等専門職については、個別のヒアリングを検討したい。

<ボランティア・プラットフォーム>

(委員)

- ・実際の文化芸術活動は、いろんな伝統行事や芸術祭等を含めて、ボランティアの方々に支えられている。その方々が意欲的を持てるようにしていかないと、文化芸術は発展していかない。引っ張っていく人も大事だが、支える人も重要。
- ・ボランティアを含めた、人々が集まっていけるようなプラットフォームを作るということも検討すべき。

(事務局)

- ・次期計画素案中、主な取組、「プラットフォームづくり」に盛り込むことを検討したい。

(3) その他 今後のスケジュールなどについて

次回の審議会において、アンケート調査結果の最終報告及び次期計画の新規事業を含めた詳細な体系を示すこととなった。また、その他、今後のスケジュール等について事務局から説明を行った。

以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以 上